

改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(2)加害に焦点を当てた分析

NAGANUMA, Satomi / 越智, 啓太 / 喜入, 暁 / 佐山, 七生 /
甲斐, 恵利奈 / 長沼, 里美 / OCHI, Keita / KIIRE, Satoru
/ SAYAMA, Nanao / KAI, Erina

(出版者 / Publisher)

法政大学文学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Bulletin of the Faculty of Letters, Hosei University / 法政大学文学部紀要

(巻 / Volume)

72

(開始ページ / Start Page)

161

(終了ページ / End Page)

171

(発行年 / Year)

2016-03-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012766>

改訂版デートバイオレンス・ ハラスメント尺度の作成と分析 (2)

— 加害に焦点を当てた分析 —

越智 啓太・喜入 暁
佐山 七生・甲斐恵利奈
長沼 里美

要 旨

本研究では、デートバイオレンスとデートハラスメントの加害についての自己評定式の尺度を作成し、これらの行動の特性について分析を行った。身体的暴力、間接的暴力、支配監視、言語的暴力、性的暴力、経済的暴力、つきまとい・ストーキングの7つの因子について、その加害経験を測定する尺度が構成された。この尺度を元にして、加害者の属性とさまざまなバイオレンス・ハラスメント行為の関連について分析を行った。分析の結果、加害行為は同種のバイオレンス・ハラスメント被害と高い相関を持っており、加害の背景には被害があること、自分が受けた被害に比べて自分の行った加害の程度は低く評定されがちである事などが示された。

1. 問 題

夫婦や同居のカップル間における暴力行為はドメスティックバイオレンス (domestic violence) といわれるが、これに対して、恋愛関係にある交際中のカップルの間で行われる、暴力行為をデートバイオレンス (dating violence) という。ドメスティックバイオレンスに比べ、デートバイオレンスは「そんな暴力をふるう相手とは、別れてしまえばいいだけなのではないか」と考えられやすいので、近年まであまり大きな問題とは捉えられていなかった。しかしながら、実際には、暴力行為が介在する恋愛関係であっても簡単に別れることが出来ず、また、別れようとする行動が事態を悪化させることも少なくなく、「別れてしまえばいい」と片付けられる問題ではない。さらに近年では、身体的な暴力ではなく、相手の行動の支

配や監視、心理的な虐待など、さまざまな種類のハラスメント行為が行われていることが指摘されている。これらのデートバイオレンス、ハラスメント行為をなくしていくためには、まずその現状を把握しや発生メカニズムを理解していくことが必要であろう。そこで、我々は交際中のカップルを対象として、デートバイオレンス・ハラスメントを測定する尺度を作成し、それと関連する要因について調査を行うことにした。前報 (越智・喜入・甲斐・佐山・長沼, 2015) においては、尺度の作成、おもに被害経験に焦点を当てて分析を行ってきたが、この調査においては自らのデートバイオレンス、ハラスメント加害行動についての自己申告調査も同時に行っていた。そこで本報においては主にこの加害行為に焦点を当てた分析について報告する。

2. 方 法

調査参加者：あらかじめ調査会社のデータベースに登録されている調査協力候補者の中から、現在異性と交際している（同性愛のケースは今回は、対象としていない）、全国の18歳～39歳までの未婚の男女600名（男性300名、女性300名）を調査対象としてウェブ調査を行った。交際の定義としては、以下とした「つきあっている（交際している）」とは、一回以上ふたりきりでデートをしたことがあるということで、告白や正式な交際宣言などをしたりしている必要はない。他の人と平行して交際しているか否かは問わない」。調査対象者の、平均年齢は、28.79歳（標準偏差5.79）、男性28.78歳（標準偏差5.70）、女性28.79歳（標準偏差5.89）である。日本全国のすべての県に1名以上の対象者が存在する。複数と交際している人はそのうちの任意の1名との関係について回答した。回答がぶれないようにはじめに対象者のイニシャルを識別子として記載させてから、回答をおこなせた。なお、調査は㈱クロス・マーケティングに委託して行った。回答にはおおむね5～15分程度を要する。参加者はこの調査に回答することでのちに商品などと交換することが出来る一定のポイントを得ることが出来た。

実施した質問紙の内容：調査対象者には、自分自身と交際相手の年齢、職業、学歴、住所（県）、魅力度の評定、喫煙、飲酒頻度などの質問と、恋愛の進展状況、相手と別れた場合の次の交際相手を見つけるまでの推定期間などの質問に回答させた。また、愛情・尊敬・友情尺度（越智ら、2015b）とデートバイオレンス・ハラスメント尺度を実施した。

デートバイオレンス・ハラスメント被害尺度：詳細は、越智ら（2015b）による。身体的暴力、間接的暴力、支配・監視、言語的暴力、性的暴力、経済的暴力、つきまとい・ストーキングの7つの下位尺度からなる。それぞれの被害の程度について5段階で評定させるもの。

デートバイオレンス・ハラスメント加害尺度：越智ら（2015）で構成した上記のデートバイオレンス・ハラスメント被害尺度について、それぞれ被害項目を加害項目に変更した尺度を用いた。具体的には、「殴るそぶりや、ものを投げつける振りをして脅されたことがある。」を「殴るそぶりや、ものを投げつける振りをして脅したことがある」に変更した項目からなる尺度を用いた。身体的暴力、間接的暴力、支配・監視、言語的暴力、性的暴力、経済的暴力、つきまとい・ストーキングの7つの下位尺度からなる。それぞれの加害の程度については、「まったくない」、「ほとんどない」、「たまにある」、「ときどきある」、「よくある」の5段階で評定させた。

3. 結果と考察

3-1. 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント加害測定尺度の作成

デートバイオレンス・ハラスメント加害尺度について、被害尺度と同様の項目からなる下位尺度を構成し、ロバスト最尤法による確証的因子分析を行った。その結果、Table 1のような結果が得られた。適合度は χ^2 二乗(539)=874.64, $p<.001$, RMSEA=.032, CFI=.953, SRMR=.038 で良好だった。また、各項目ごとの男女別記述統計量をTable 2に、それぞれの因子間の相関係数をTable 3に、因子ごとの記述統計をTable 4に示す。歪度をみてわかるように、すべての下位尺度に於いて、分布は合計点が最低点である平均1点合計5点側に偏った形状になった。

3-2. デートバイオレンス・ハラスメント加害行動の性差

7つのデートバイオレンス・ハラスメント下位尺度ごとに男性と女性の加害平均得点を算出した。結果をTable 5に示した。性差があるかどうかをWelch法によって検定したところ支配監視では、性差が検出されなかったが、身体的暴力、間接的暴力では、 $p<.05$, 言語的暴力、性的暴力、経済

的暴力, つきまといに関しては, $p < .01$ でいず配監視以外のバイオレンス・ハラスメントに関し
れも男性の方の評定値が高くなった。つまり, 支ては, 男性 > 女性の傾向が見られた。

Table 1. デートバイオレンス・ハラスメント加害尺度 (確証的因子分析結果)

項	目	負 荷 量
身体的暴力 ($\alpha = .945$)		
相手の顔面を拳でなぐったことがある		.908
相手の髪の毛を引っ張ったことがある		.895
相手の身体を拳で殴ったことがある		.823
相手の身体を足で蹴ったことがある		.879
相手の顔面を平手で打ったことがある		.898
間接的暴力 ($\alpha = .935$)		
殴るそぶりや, ものを投げつけるふりをしておどかしたことがある		.879
大声で怒鳴りつけたり, 叫んだり, ののしったことがある		.770
相手にものを投げつけたことがある		.895
机や壁を殴る, 蹴るなどして相手をおどかしたことがある		.884
意に沿わないことがあって相手をにらんだことがある		.711
支配・管理 ($\alpha = .910$)		
相手へのメールの返信や電話が少し遅れたことで腹を立てたことがある		.842
頻繁に電話やメールをして, 相手が誰に会っているのかや相手の行動を確認したことがある		.863
「俺 (私) とあいつ (人, もの, ことがらなど) のどっちが大事なんだ」という言い方を相手にしたことがある		.779
少し連絡が取れないだけで浮気を疑ったことがある		.788
相手からの LINE の返事が遅かったり, 既読なのに返事を送らなかったとして腹を立てたことがある		.826
言語的暴力 ($\alpha = .884$)		
相手を見下すような言い方をしたことがある		.840
相手に人前で恥をかかせたり, 馬鹿にしたことがある		.889
「ブサイク」などとわざと相手が嫌がる呼び方で呼んだことがある		.803
相手と他の異性や以前の際相手と比較したことがある		.653
自分の趣味に合わない髪型や服装だとして相手をに文句を言ったりしたことがある		.737
性的暴力 ($\alpha = .923$)		
相手がいやがっているのに性的な接触をしたことがある		.876
相手がいやがっているのに性的な話題をしたことがある		.872
相手の裸や見られたくない写真を撮ったり撮ろうとしたことがある		.830
相手がいやがっているのにアダルトビデオやグラビアを見せたことがある		.906
強引に相手の体を触ったことがある		.744
経済的暴力 ($\alpha = .841$)		
借りたお金やものを返さなかったことがある		.912
デートの時など相手にお金を払わせたことがある		.398
お金やものを貢がせたことがある		.787
お金をせびったことがある		.894
「好きならばこれを買って」とか「つきあいたいならこれをちょうだい」などと言ったことがある		.908
つきまとい・ストーキング ($\alpha = .939$)		
相手の実家やアパートに押しかけたことがある		.867
相手が別れようとしたときに困ることを言って脅したことがある		.812
嫌がっているのに, どこにいくのも相手についていったことがある		.878
通勤・通学路などで待ち伏せしたことがある		.886
見張っているぞなどといったことがある		.915

Table 2. 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント加害尺度の項目別、男女別の平均得点、標準偏差

項 目	男 性	女 性
身体的暴力 ($\alpha=.945$)		
相手の顔面を拳でなぐったことがある	1.28 (0.76)	1.13 (0.49)
相手の髪の毛を引っ張ったことがある	1.34 (0.82)	1.25 (0.60)
相手の身体を拳で殴ったことがある	1.27 (0.74)	1.21 (0.61)
相手の身体を足で蹴ったことがある	1.30 (0.74)	1.21 (0.59)
相手の顔面を平手で打ったことがある	1.32 (0.78)	1.22 (0.59)
間接的暴力 ($\alpha=.935$)		
殴るそぶりや、ものを投げつけるふりをしておどかしたことがある	1.33 (0.79)	1.18 (0.52)
大声で怒鳴りつけたり、叫んだり、ののしったことがある	1.42 (0.85)	1.25 (0.64)
相手にものを投げつけたことがある	1.27 (0.71)	1.19 (0.54)
机や壁を殴る、蹴るなどして相手をおどかしたことがある	1.33 (0.76)	1.12 (0.44)
意に沿わないことがあって相手をにらんだことがある	1.47 (0.91)	1.46 (0.85)
支配・管理 ($\alpha=.910$)		
相手へのメールの返信や電話が少し遅れたことで腹を立てたことがある	1.47 (0.87)	1.37 (0.83)
頻繁に電話やメールをして、相手が誰に会っているのかや相手の行動を確認したことがある	1.37 (0.82)	1.28 (0.73)
「俺（私）とあいつ（人、もの、ことがらなど）のどちらが大事なんだ」という言い方を相手にしたことがある	1.38 (0.84)	1.27 (0.72)
少し連絡が取れないだけで浮気を疑ったことがある	1.46 (0.88)	1.44 (0.93)
相手からの LINE の返事が遅かったり、既読なのに返事を送らなかったとして腹を立てたことがある	1.45 (0.90)	1.34 (0.80)
言語的暴力 ($\alpha=.884$)		
相手を見下すような言い方をしたことがある	1.51 (0.93)	1.30 (0.64)
相手に人前で恥をかかせたり、馬鹿にしたことがある	1.36 (0.81)	1.17 (0.47)
「ブサイク」などとわざと相手が嫌がる呼び方で呼んだことがある	1.38 (0.81)	1.22 (0.58)
相手と他の異性や以前の交際相手と比較したことがある	1.49 (0.87)	1.41 (0.83)
自分の趣味に合わない髪型や服装だとして相手をに文句を言ったりしたことがある	1.40 (0.79)	1.33 (0.73)
性的暴力 ($\alpha=.923$)		
相手がいやがっているのに性的な接触をしたことがある	1.42 (0.84)	1.09 (0.40)
相手がいやがっているのに性的な話題をしたことがある	1.43 (0.88)	1.08 (0.36)
相手の裸や見られたくない写真を撮ったり撮ろうとしたことがある	1.41 (0.88)	1.10 (0.44)
相手がいやがっているのにアダルトビデオやグラビアを見せたことがある	1.31 (0.75)	1.07 (0.35)
強引に相手の体を触ったことがある	1.59 (1.01)	1.15 (0.50)
経済的暴力 ($\alpha=.841$)		
借りたお金やものを返さなかったことがある	1.31 (0.79)	1.10 (0.42)
デートの時など相手にお金を払わせたことがある	1.50 (0.91)	1.90 (1.37)
お金やものを貢がせたことがある	1.34 (0.80)	1.22 (0.69)
お金をせびったことがある	1.29 (0.77)	1.12 (0.45)
「好きならばこれを買って」とか「つきあいたいならこれをちょうだい」などと言ったことがある	1.32 (0.78)	1.12 (0.45)
つきまとい・ストーキング ($\alpha=.939$)		
相手の実家やアパートに押しかけたことがある	1.31 (0.77)	1.11 (0.44)
相手が別れようとしたときに困ることを言って脅したことがある	1.30 (0.79)	1.10 (0.49)
嫌がっているのに、どこにいくのも相手についていったことがある	1.28 (0.71)	1.08 (0.35)
通勤・通学路などで待ち伏せしたことがある	1.29 (0.73)	1.09 (0.41)
見張っているぞなどといったことがある	1.28 (0.72)	1.07 (0.34)

()は標準偏差

Table 3. デートバイオレンス・ハラスメント加害尺度間相関行列

	1	2	3	4	5	6
1. 身体的暴力	—					
2. 間接的暴力	0.944	—				
3. 支配・管理	0.748	0.775	—			
4. 言語的暴力	0.815	0.834	0.796	—		
5. 性的暴力	0.818	0.818	0.707	0.873	—	
6. 経済的暴力	0.867	0.847	0.732	0.869	0.882	—
7. つきまとい・ストーキング	0.876	0.866	0.783	0.846	0.854	0.950

Table 4. バイオレンス・ハラスメント加害尺度の各因子ごとの記述統計量

	平均	標準偏差	標準誤差	歪度
身体的暴力	6.20	3.04	.124	3.07
間接的暴力	6.51	3.07	.125	2.69
支配監視	6.91	3.57	.146	2.37
言語的暴力	6.79	3.15	.129	2.45
性的暴力	6.33	3.08	.126	2.87
経済的暴力	6.11	2.99	.122	3.35
つきまとい	5.98	2.74	.112	3.48
合 計	44.83	19.30	.789	3.15

3-3. デートバイオレンス・ハラスメント加害行動, 被害行動の差

7つのデートバイオレンス・ハラスメント尺度について今回分析の対象である自分が行ったという「加害行為」とは別に同じ項目について同様に5段階評定で自分が「被害」を受けている程度についても評定させた。これらの評定の差について、Welch 法により検定を行ったところ、すべての

Table 6. バイオレンス・ハラスメント加害・被害の差

	加 害	被 害	
身体的暴力	6.20 (3.04)	6.66 (3.78)	**
間接的暴力	6.51 (3.07)	7.23 (4.13)	**
支配監視	6.91 (3.58)	7.73 (4.19)	**
言語的暴力	6.79 (3.15)	7.54 (3.84)	**
性的暴力	6.33 (3.08)	7.31 (3.90)	**
経済的暴力	6.11 (2.99)	6.62 (3.52)	**
つきまとい	5.98 (2.74)	6.38 (3.33)	**
合 計	49.48 (22.85)	44.83 (19.30)	**

()内は標準偏差; * $p < .05$, ** $p < .01$

Table 5. バイオレンス・ハラスメント加害の性差

	男	性	女	性	
身体的暴力	6.49	(3.64)	5.91	(2.27)	*
間接的暴力	6.82	(3.62)	6.20	(2.37)	*
支配監視	7.13	(3.84)	6.70	(3.30)	n.s.
言語的暴力	7.14	(3.73)	6.43	(2.41)	**
性的暴力	7.16	(3.78)	5.49	(1.83)	**
経済的暴力	6.58	(3.74)	5.64	(1.86)	**
つきまとい	6.46	(3.38)	5.50	(1.76)	**
合 計	47.77	(23.60)	41.87	(13.09)	

()内は標準偏差; * $p < .05$, ** $p < .01$

項目で $p < .01$ で有意差が見られ、被害の評定値の方が大きくなった。つまり、すべての調査参加者が「自分が加害行為を行った」程度よりも「被害を受けている」程度の方が大きいと感じていることを示している。これは、自分が行っている加害行為を過小に認知しているか、自分の被害を過大に認知しているということを意味している。

3-4. デートバイオレンス・ハラスメント加害行動の年代差

7つのデートバイオレンス・ハラスメント下位尺度ごとに加害者の年代 (10 代, 20 代, 30 代) ごとの平均得点を算出した。結果を Table 7 に示した。分散分析の結果、すべての項目で有意差は検出されなかった。また、それぞれの下位尺度ごとに性差×年代の分散分析も行ったが、これに関しても有意な交互作用は、検出されなかった。つまり、デートバイオレンス・ハラスメントに関しては、自己報告による限りでは、加害者の年代による違いはみられなかった。

Table 7. 加害者（自分）の年代別デートバイオレンス・ハラスメント加害得点

	10代	20代	30代
標本数	43	295	262
身体的暴力	6.60	6.28	6.04
間接的暴力	6.81	6.41	6.58
支配監視	7.58	6.98	6.73
言語的暴力	6.77	6.68	6.92
性的暴力	6.60	6.29	6.32
経済的暴力	6.16	6.07	6.15
つきまとい	6.42	5.99	5.89
合 計	46.95	44.69	44.62

次に、被害者の年代の違いについて分析を行った。分散分析を行ったところ、身体的暴力に関して年代の効果 $F(3, 596)=3.871, p<.01$ 、性的暴力に関して年代の効果 $F(3, 596)=5.302, p<.01$ と、つきまといに関して年代の主効果 $F(3, 596)=2.977, p<.05$ が有意になった。また、経済的暴力に関して年代の効果 $F(3, 596)=2.217, p<.1$ 、と合計得点 $F(3, 596)=2.409, p<.1$ が有意傾向にあった。多重比較の結果、身体的暴力に関しては、20代と30代の間にのみ有意差が見られ、20代の身体的暴力の得点が30代よりも多かった。性的暴力に関しては、20代が30、40代よりも多かった。つきまといに関しても、20代が30、40代よりも多かった。全体的に被害者が20代の場合にデートバイオレンス・ハラスメント行為がやや多い傾向にあった。

Table 8. 被害者（交際相手）の年代別デートバイオレンス・ハラスメント加害得点

	10 代	20 代	30 代	40 代	
標本数	33	316	189	62	
身体的暴力	6.70	6.54	5.72	5.65	**
間接的暴力	6.39	6.70	6.34	6.13	<i>n.s.</i>
支配監視	6.91	7.12	6.67	6.61	<i>n.s.</i>
言語的暴力	6.67	6.87	6.90	6.03	<i>n.s.</i>
性的暴力	6.27	6.74	6.00	5.24	**
経済的暴力	6.27	6.36	5.89	5.42	+
つきまとい	6.27	6.25	5.67	5.39	*
合 計	45.48	46.59	43.19	40.47	+

+ $p<.1$; * $p<.05$; ** $p<.01$

3-5. デートバイオレンス・ハラスメント加害と学歴の関係

被害者側の評価によれば、加害者の学歴と加害行動の間には関連が見られ、学歴が低い場合には、バイオレンス・ハラスメント行動が多いという事がわかっている（越智ら、2015b）。では、加害者側の自己申告ではこのような結果は見られるだろうか。加害者の学歴を「高卒以下」、「短大・専門学校卒以下」、「大卒以上」の3つのカテゴリーに分け、7つのデートバイオレンス・ハラスメント尺度ごとに平均値を算出した。この結果を分散分析したところ、すべての下位尺度で有意な差は見られなかった。

一方、被害者（交際相手）の学歴を「高卒以下」、「短大・専門学校卒以下」、「大卒以上」の3つのカテゴリーに分け、7つのデートバイオレンス・ハラスメント尺度ごとに平均値を算出して分散分析したところ、身体的暴力 $F(2, 585)=4.374, p<.05$ 、間接的暴力 $F(2, 585)=3.595, p<.01$ 、支配監視 $F(2, 585)=6.124, p<.01$ 、言語的暴力 $F(2, 585)=4.703, p<.01$ 、性的暴力 $F(2, 585)=3.423, p<.05$ 、つきまとい $F(2, 585)=3.922, p<.05$ 、合計点 $F(2, 585)=4.599, p<.01$ となり、経済的暴力以外の尺度で、 $p<.05$ 以上の危険率で有意差が見られた。多重比較の結果、身体的暴力、支配監視、言語的暴力、つきまといで高卒以下とそれ以

Table 9. 加害者（自分）の学歴カテゴリーごとのバイオレンス・ハラスメント加害得点

	高卒以下	短大・専門	大卒以上
標本数	129	102	357
身体的暴力	6.55	5.93	6.18
間接的暴力	6.92	6.33	6.46
支配監視	7.48	6.73	6.75
言語的暴力	7.23	6.65	6.66
性的暴力	6.55	6.10	6.36
経済的暴力	6.17	5.88	6.15
つきまとい	6.18	5.68	5.98
合 計	47.09	43.29	44.55

Table 10. 被害者（交際相手）の学歴カテゴリーごとのバイオレンス・ハラスメント加害得点

	高卒以下	短大・専門	大卒以上	
標本数	140	106	342	
身体的暴力	6.81	5.88	6.00	*
間接的暴力	7.06	6.58	6.25	*
支配監視	7.78	6.94	6.53	**
言語的暴力	7.43	6.75	6.48	**
性的暴力	6.85	6.44	6.06	*
経済的暴力	6.44	5.81	6.04	n.s.
つきまとい	6.52	5.80	5.79	*

合 計 48.90 44.19 43.15 **

* $p < .05$; ** $p < .01$

上で差が見られた。間接的暴力、性的暴力については差が見られなかった。さらに性差を要因に加えて分析も行って見たが、性差と学歴の交互作用はすべての下位尺度について、見られなかった。つまり、一般的には、被害者（交際相手）の学歴が低いほどバイオレンス・ハラスメントが行なわれやすいという事である。

3-6. デートバイオレンス・ハラスメント加害と飲酒・喫煙の関連

加害者（自分）の飲酒量と各種のバイオレンス・ハラスメント加害の関連について分散分析を行ったところ、間接的暴力 $F(6, 593) = 2.195, p < .05$, 性的暴力 $F(6, 593) = 2.694, p < .05$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 2.116, p < .05$, 合計点 $F(6, 593) = 2.405, p < .05$ で有意な差が見られた。基本的には、飲酒量が多いほど加害傾向が大きかったが、「飲酒しない」場合には最低ではなく、「ほとんど飲酒しない」の結果が最低となることが多かった。多重比較の結果、多くの尺度についても、「非常に多い」と「ほとんど飲酒しない」の間みに有意な差が見られた。

一方、被害者（交際相手）の飲酒量と各種バイオレンス・ハラスメント加害の関連について分散分析を行ったところ、直接的暴力 $F(6, 593) = 4.598, p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) = 2.346, p < .05$, 支配監視 $F(6, 593) = 3.325, p < .01$, 言語的暴力 $F(6,$

Table 11. 加害者（自分）と被害者（交際相手）の飲酒者数

	加害者		被害者	
	男性	女性	男性	女性
非常に多い	27	13	21	9
多 い	49	20	50	12
どちらかといえば多い	40	31	30	28
普 通	49	61	85	76
どちらかといえば少ない	42	36	28	38
少ない	48	64	43	68
しない	45	75	43	69
合 計	300	300	300	300

593) = 2.696, $p < .05$, 性的暴力 $F(6, 593) = 2.173, p < .05$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 4.044, p < .01$, つきまとい $F(6, 593) = 4.233, p < .01$, 合計 $F(6, 593) = 3.897, p < .01$ ですべての種類について有意な差が見られた。やはり、飲酒量が多いほどバイオレンス・ハラスメントを受けやすい傾向だったが、「飲酒しない」場合には最低ではなく、「ほとんど飲酒しない」の結果が最低となることが多かった。多重比較の結果、多くの尺度についても、「非常に多い」と「ほとんど飲酒しない」の間みに有意な差が見られた。

次に、加害者（自分）の喫煙量と各種のバイオレンス・ハラスメントの関連について分析を行った。ただし、600人中、喫煙をしないものがおよそ2/3を占めており、喫煙するものは少なかった。喫煙者の人数を Table 12 に挙げる。喫煙量ごとに分散分析を行ったところ、直接的暴力 $F(6, 593) = 3.214, p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) =$

Table 12. 加害者（自分）と被害者（交際相手）の喫煙者数

	加害者		被害者	
	男性	女性	男性	女性
非常に多い	26	18	27	7
多 い	33	14	32	10
どちらかといえば多い	20	11	24	15
普 通	27	19	31	24
どちらかといえば少ない	12	10	7	6
少ない	12	7	9	3
しない	170	221	170	235
合 計	300	300	300	300

Table 13. 自分、相手の喫煙量とバイオレンス・ハラスメント加害尺度の合計点

	加害者の喫煙量 (自分)	被害者の喫煙量 (交際相手)
非常に多い	56.1	56.8
多 い	48.3	41.9
どちらかといえば多い	46.5	47.6
普 通	43.0	44.8
どちらかといえば少ない	49.5	53.3
少ない	44.6	46.8
しない	43.0	43.5

3.785, $p < .01$, 支配監視 $F(6, 593) = 2.520$, $p < .05$, 言語的暴力 $F(6, 593) = 3.341$, $p < .01$, 性的暴力 $F(6, 593) = 2.383$, $p < .05$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 3.518$, $p < .01$, つきまとい $F(6, 593) = 3.252$, $p < .01$, 合計 $F(6, 593) = 3.780$, $p < .01$ ですべての種類について有意な差が見られた。多重比較の結果, 「非常に多い」喫煙量のものの加害得点が高傾向が見られた。それ以外には差はほとんど見られなかった。

被害者(相手)の喫煙量と各種のバイオレンス・ハラスメントの関連について分析したところ, 直接的暴力 $F(6, 593) = 3.296$, $p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) = 3.504$, $p < .01$, 支配監視 $F(6, 593) = 1.339$, n.s., 言語的暴力 $F(6, 593) = 3.592$, $p < .01$, 性的暴力 $F(6, 593) = 1.830$, n.s., 経済的暴力 $F(6, 593) = 4.151$, $p < .01$, つきまとい $F(6, 593) = 2.840$, $p < .01$, 合計 $F(6, 593) = 3.305$, $p < .01$ で支配・監視と性的暴力以外の項目に有意差が見られた。多重比較の結果, 喫煙量の主効果が有意だったものに対しては, やはり, 「非常に多い」喫煙量のものに対してバイオレンス・ハラスメントが突出して行なわれやすい傾向にあった。

3-7. デートバイオレンス・ハラスメント加害と恋愛の進展状況の関連

次に, 恋愛の進展状況とデートバイオレンス・ハラスメントの関連について分析を行った。恋愛の進展状況の指標としては越智ら(2014)で開発した尺度を用いた。これは, 「二人きりでデートをする」から「婚約している」までその過程で生

じるイベント12項目について, それらのうち, いくつかを体験しているかを, 便宜上, 恋愛の進行状況と考えるものである。まず, 進展度合いごとに, 各種デートバイオレンス・ハラスメント行為に差が見られるかについて, 分散分析を行ったところ, 身体的暴力 ($F(11, 588) = 2.699$, $p < .01$), 性的暴力 ($F(11, 588) = 2.031$, $p < .05$), 経済的暴力 ($F(11, 588) = 3.197$, $p < .01$), つきまとい ($F(11, 588) = 4.123$, $p < .01$) で有意な差が見られた。間接的暴力 ($F(11, 588) = 1.405$, $p > .05$), 支配監視 ($F(11, 588) = 0.854$, $p > .05$), 言語的暴力 ($F(11, 588) = 1.543$, $p > .05$) では, 差が見られなかった。次に進展度合いとデートバイオレンス・ハラスメント行為の相関係数を算出したところ, 身体的暴力 ($r = -.164$, $p < .01$), 間接的暴力 ($r = -.092$, $p < .05$), 支配監視 ($r = -.100$, $p < .05$), 言語的暴力 ($r = -.088$, $p < .05$), 性的暴力 ($r = -.016$, $p < .01$), 経済的暴力 ($r = -.192$, $p < .01$), つきまとい ($r = -.224$, $p < .01$) となった。いずれのものも関係が進展するに従って, それぞれのバイオレンス・ハラスメント行為は減少していくという傾向が見られた。これはバイオレンスやハラスメントが存在しないことが関係の進展と関連することを示している。ただし, この傾向はいずれの行為でもそれほど顕著なものではなかった。

3-8. デートバイオレンス・ハラスメント加害と愛情・尊敬・友情との関連

越智ら(2015b)において作成された, 交際相手に対する愛情, 尊敬, 友情尺度と各種のバイオレンス・ハラスメント行為加害得点との関連を分析した。その結果, 「友情」尺度がバイオレンス・ハラスメント尺度と一貫して負の相関を示しており, 友情関係の存在が加害の少なさと関係していることが示された。一方で, 「恋愛」尺度, 「尊敬」尺度に関しては驚くべき事に, バイオレンス・ハラスメントの加害とほとんど関係を持っていなかった(愛情に関しては無相関検定でいくつかのものが有意になったが, 相関係数は極めて低い値だった)。これは愛情や尊敬の感情がバイオレンス,

Table 14. 愛情, 尊敬, 友情各尺度とバイオレンス・ハラスメント加害得点の相関

	愛情	尊敬	友情
身体的暴力	-.084*	-.065	-.240**
間接的暴力	-.090*	-.052	-.222**
支配監視	-.008	-.029	-.156**
言語的暴力	-.094*	-.065	-.202**
性的暴力	-.031	-.050	-.170**
経済的暴力	-.097*	-.032	-.289**
つきまとい	-.050	-.031	-.259**

* $p < .05$; ** $p < .01$

ハラスメントの抑制要因になっていないことを示しており、興味深い。

3-9. デートバイオレンス・ハラスメント加害と交際の満足度との関連

デートバイオレンスやハラスメント行為は、一般に交際の満足度を低下させるものになると思われる。そこで、7段階の「自分から見た交際満足度」の評定値ごとにバイオレンス・ハラスメント得点に差があるかを分散分析してみた。その結果、ある意味で当然なこととはいええるかも知れないが、すべての尺度で $p < 0.05$ 以下の危険率で有意な差が検出された。身体的暴力 $F(6, 593) = 5.344, p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) = 4.682, p < .01$, 支配監視 $F(6, 593) = 4.243, p < .01$, 言語的暴力 $F(6, 593) = 4.417, p < .01$, 性的暴力 $F(6, 593) = 3.250, p < .01$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 5.952, p < .01$, つきまとい $F(6, 593) = 5.670, p < .01$, 合計点 $F(6, 593) = 5.550, p < .01$ 。ただし、詳しく傾向を分析してみると満足度が最低(1)のよりも満足度が7段階評定で2~3の場合にそれぞれのデートバイオレンス・ハラスメント行為が最大であることが多かった。これは、満足度が非常に低い場合は、そもそもコミュニケーション自体が成り立っていないかったり、お互いに会う機会が少なくなっているからではないかと思われる。

また、「相手からみた交際の満足度の推定」値ごとに同様にバイオレンス・ハラスメント得点に差があるのかを分析した見たが、これも同様に、

すべての尺度で $p < .01$ 以下の危険率で有意な差が検出された。身体的暴力 $F(6, 593) = 7.410, p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) = 5.169, p < .01$, 支配監視 $F(6, 593) = 5.283, p < .05$, 言語的暴力 $F(6, 593) = 4.958, p < .01$, 性的暴力 $F(6, 593) = 3.910, p < .01$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 6.197, p < .01$, つきまとい $F(6, 593) = 7.450, p < .01$, 合計点 $F(6, 593) = 6.918, p < .01$ となった。全体的な傾向はもちろん、満足度が高くなるに従って、バイオレンス、ハラスメントが少なくなる傾向にはあったが、満足度が最低(1)の場合よりも満足度が7段階評定で2の場合に、もっともバイオレント、ハラスメント行為が多いことがわかった。これも、満足度が非常に低い場合は、そもそもコミュニケーション自体が成り立っていないかったり、お互いに会う機会が少なくなっているからではないかと思われる。

3-10. デートバイオレンス・ハラスメントの被害と次の交際相手の見つけやすさ推定値の関連

現在交際中の相手に対して、バイオレンス、ハラスメント行為を行わない理由として、次の交際相手を見つけるのが困難であるという理由が考えられる。つまり、現在の交際相手に対してこのような行為を行ってしまえば、交際が終結し、次の交際相手が見つからない危険性があるからである。これが抑制要因になっているのかを検討するために、7段階で評定させた、「次の交際相手を見つけることの容易さ」についての自己評定値と各種バイオレンスハラスメント行為の関連について分析してみた。ちなみに7段階は、仮に交際相手と別れた場合に次の相手を見つける期間の評定で、「数日以内」、「1ヶ月以内」、「3ヶ月以内」、「半年以内」、「1年以内」、「2年以内」、「それ以上かかる」から選択させるものであった。分散分析の結果、身体的暴力 $F(6, 593) = 7.014, p < .01$, 間接的暴力 $F(6, 593) = 5.309, p < .01$, 支配監視 $F(6, 593) = 5.085, p < .01$, 言語的暴力 $F(6, 593) = 5.126, p < .01$, 性的暴力 $F(6, 593) = 4.723, p < .01$, 経済的暴力 $F(6, 593) = 5.825, p < .01$, つきまとい $F(6,$

Table 15. 加害者・被害者の次の交際相手のみつけやすさ評定値とバイオレンス・ハラスメント加害尺度合計点の関連

	自分（加害者）	相手（被害者）
数日以内	59.36（25）	68.20（12）
1ヶ月以内	49.24（37）	50.85（46）
3ヶ月以内	53.19（68）	47.67（81）
半年以内	44.39（85）	42.94（105）
1年以内	40.66（121）	41.65（132）
2年以内	41.42（51）	40.68（50）
それ以上かかる	43.04（213）	43.16（161）

（ ）内は人数

593)=5.277, $p<.01$, 合計点 $F(6, 593)=6.694$, $p<.01$ と、すべての尺度について、 $p<.01$ となった。

結果を見ると、次の交際相手を見つけるのが困難であると感じるほど、各種のバイオレンス、ハラスメント行為が少なくなる傾向が見られており、仮説通り、次の交際相手の得にくさが、バイオレンス・ハラスメント抑制要因になっていることがわかる。

また、相手について自分と別れた場合、次の交際相手がどのくらいで見つかるのかの評定値と、バイオレンス・ハラスメント尺度の関係についても同様の分析を行った。その結果、身体的暴力 $F(6, 593)=8.426$, $p<.01$, 間接的暴力 $F(6, 593)=6.110$, $p<.01$, 支配監視 $F(6, 593)=8.473$, $p<.01$, 言語的暴力 $F(6, 593)=5.933$, $p<.01$, 性的暴力 $F(6, 593)=6.452$, $p<.01$, 経済的暴力 $F(6, 593)=7.500$, $p<.01$, つきまとい $F(6, 593)=9.318$, $p<.01$, 合計点 $F(6, 593)=9.194$, $p<.01$ でやはりすべての項目で、 $p<.01$ となった。これは、相手（被害者）が次の恋人を得にくいと思われるほど、加害者のバイオレンス・ハラスメントが抑制されるという事を示している。

越智ら（2015b）の研究に於いて、「バイオレンス・ハラスメント被害」についてデータを分析したところ、「新しい交際相手を得ることが」たやすいと思っているほど、バイオレンス・ハラスメントを受けているという事が示されており、本研究の結果と整合するデータである。

3-11. デートバイオレンス・ハラスメントの被害と外見的魅力の関連

加害者の外見的な魅力度の自己評定値と被害者の外見的魅力の評定値とバイオレンス・ハラスメント尺度の関連について分析を行った（ただし、越智ら（2015）で報告した3名の外れ値については削除して分析した）。外見的魅力についてはそれぞれ、同性からの魅力度と異性からの魅力度について評定させた。分散分析の結果、ほとんどすべての項目で有意な差は検出されなかったため、外見的魅力度とバイオレンス・ハラスメント加害の関連はほぼ存在しないと考えられる。ただし、加害者の同性からの魅力評定値については、身体的暴力 $F(6, 590)=2.281$, $p<.05$, 支配監視 $F(6, 590)=2.387$, $p<.05$ については有意な差が見られ、自分が同性から見て魅力的だと考えているほど、バイオレンス、ハラスメント行為が多いことが示された。この結果は男性においては、同性集団に於いて女性蔑視的で暴力的な態度が形成されるという現象（越智ら，2014）と関連しているかも知れない。

3-12. デートバイオレンス・ハラスメントの加害と被害の関連

本研究では、デートバイオレンス・ハラスメント行為について同一人物にその加害と被害の程度について評定させた。そこで、これらの関係、つまり、被害を受けている程度と加害を受けている

Table 16. デートバイオレンス・ハラスメント加害得点と被害得点の相関

	相 関 係 数
身体的暴力	.622**
間接的暴力	.601**
支配監視	.523**
言語的暴力	.533**
性的暴力	.516**
経済的暴力	.605**
つきまとい	.728**
合 計	.774**

** $p<.01$

程度の相関を算出してみた。結果を Table 16 に示す。この結果、すべてのバイオレンス・ハラスメント行為に於いて、1%水準で有意な相関が見られた。これらの結果より、バイオレンスやハラスメントを受けることが同種の行為を相手に行う事の原因になっており、またバイオレンスやハラスメント行為を行う事が同種の行為を受ける原因になっている可能性が示唆される。

4. 総合考察

本研究では、デートバイオレンス・ハラスメント行為について、加害行動を評定する尺度を作成するとともに、自己報告された加害行動と回答者の様々な属性との関連について分析し、その基礎的なデータについて報告した。ひとつの興味深い発見としては、被害についての評定と加害についての評定が必ずしも一致したパターンを示さず、人は被害について過大に、あるいは加害について過小に評価しているという事がわかった点であろうか。前報と今回の報告はおもに属性情報との関

連を分析したものであるが、今後はパーソナリティ要因などとバイオレンス、ハラスメントの関連をみていくとともに、交際相手の危険性の推定などの研究を進めていきたい。

注

本研究は、科学研究費補助金（基盤研究 C）の助成を受けて行われた。

参考文献

- 越智啓太（2014）. ケースで学ぶ犯罪心理学 北大路書房
- 越智啓太，長沼里美，甲斐恵利奈（2014）. 大学生に対するデートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成. 法政大学文学部紀要，69, 63-74.
- 越智啓太，喜入暁，甲斐恵利奈，長沼里美（2015a）. 女性蔑視的態度がデートハラスメントに及ぼす効果. 法政大学文学部紀要，70, 101-110.
- 越智啓太，喜入暁，甲斐恵利奈，佐山七生，長沼里美（2015b）. 改訂版デートバイオレンス・ハラスメント尺度の作成と分析(1) — 被害に焦点を当てた分析 —. 法政大学文学部紀要，71, 135-147.